

総合型地域スポーツクラブの 今後の展望と提案

2011年(平成23年)1月

一般社団法人東京スポーツリンク
NPO法人地域総合スポーツ倶楽部・ピボットフット

はじめに

スポーツ振興計画の策定(2000年)により、これまで全国各地で総合型地域スポーツクラブが創設され、国民に広くスポーツに参加する機会を提供してきた点は高く評価したい。

そして、2011年度以降の展望として、昨年秋に文部科学省より公表された「スポーツ立国戦略」で明確な方向性が示されたことは画期的である。

それを踏まえ、日本のスポーツ界の変革の原点に位置する「総合型スポーツクラブ」の存在が大変重要な役割となった。今後底辺を支える組織としてクラブの社会的認知度をさらに向上させ、もって個々のクラブの活動が活発化し、新たなスポーツインフラとして自立するためにも、「**総合型クラブの大義と価値**」を世の中に対して訴求する具体的な取り組みが必要とされる。

SC全国ネットワークは、クラブ(点)が積極的にネットワークを組むまとめ役をつとめるとともに、「マス」(面)として国や国民に「**ビジョン(政策提言する)を示し、実行する**」機関として責任を果たすことが期待される。

ミッション

健康志向のクラブ、楽しみ志向のクラブ、山や海などのアウトドア志向のクラブ、そして競技志向のクラブ（プロチームを頂点としたクラブも含む）など、いろいろな顔を持つ総合型クラブを中心に、日本のスポーツ界の基盤再構築を目指す。

従来のチーム型クラブを脱却し、社会公益型クラブとして、事業性を追求し、持続的な経営基盤を確立する。



スポーツを文化として定着させる

1. 総合型地域スポーツクラブ 【成果と課題】

再確認

スポーツ振興基本計画 (2000年公示)・・・10年計画

- ①スポーツの振興を通じた子どもの体力の向上方策(下注)
- ②生涯スポーツの実現に向けた、地域におけるスポーツ環境の整備充実方策
- ③我が国の国際競技力の総合的な向上方策

注(2006年中間改定で「生涯スポーツ及び競技スポーツと学校体育・スポーツとの連携を推進するための方策」から変更された。)

成果

- ・現在約3000のクラブの創設
- ・「する」スポーツの拡大
- ・比較的軽い運動やスポーツの実施増 (S54:18%→H16:33%, 内閣府)
- ・ニュースポーツの受入れ・実践
- ・施設運営(指定管理者)の受託
- ・学校部活動との連携
- ・福祉や文化活動との接点も構築

課題

- ・生涯スポーツと競技スポーツの融合
- ・競技力向上へ向けたしくみの整備
- ・カリスマ経営者からの継承問題
- ・地域産業界等との連携の欠如
- ・事業性の欠如
- 地域全体でスポーツを支える体制作り
- 競技スポーツへのアクセス
- 補助金頼みの運営からの自立

2.SC全国ネットワークの意味

1

生涯スポーツの普及拡大での政策提言

情報の共有化・事業的活動展開



2

競技力向上への支援や選手育成の受け皿として、競技団体など全国組織との連携

- ・「マス」(面)として国や国民にアピールする
- ・各クラブのノウハウの蓄積、共有。人材交流
- ・福祉や介護、地域活動との連携 等

- ・トップの選手、指導者との交流機会の増加
- ・既存の競技団体との連携協力
- ・マイナースポーツの底辺拡大戦略の受入 等

- ・総合型地域スポーツクラブの大儀と役割の浸透、存在価値の向上
- ・地域の実情(気候風土・文化・地場産業・人材等)に見合う、個性あるスポーツコミュニティの実現
- ・事業的経営基盤の確立でクラブ参加者、運営者の夢づくり

3. 競技スポーツ界の構造的な課題とその影響

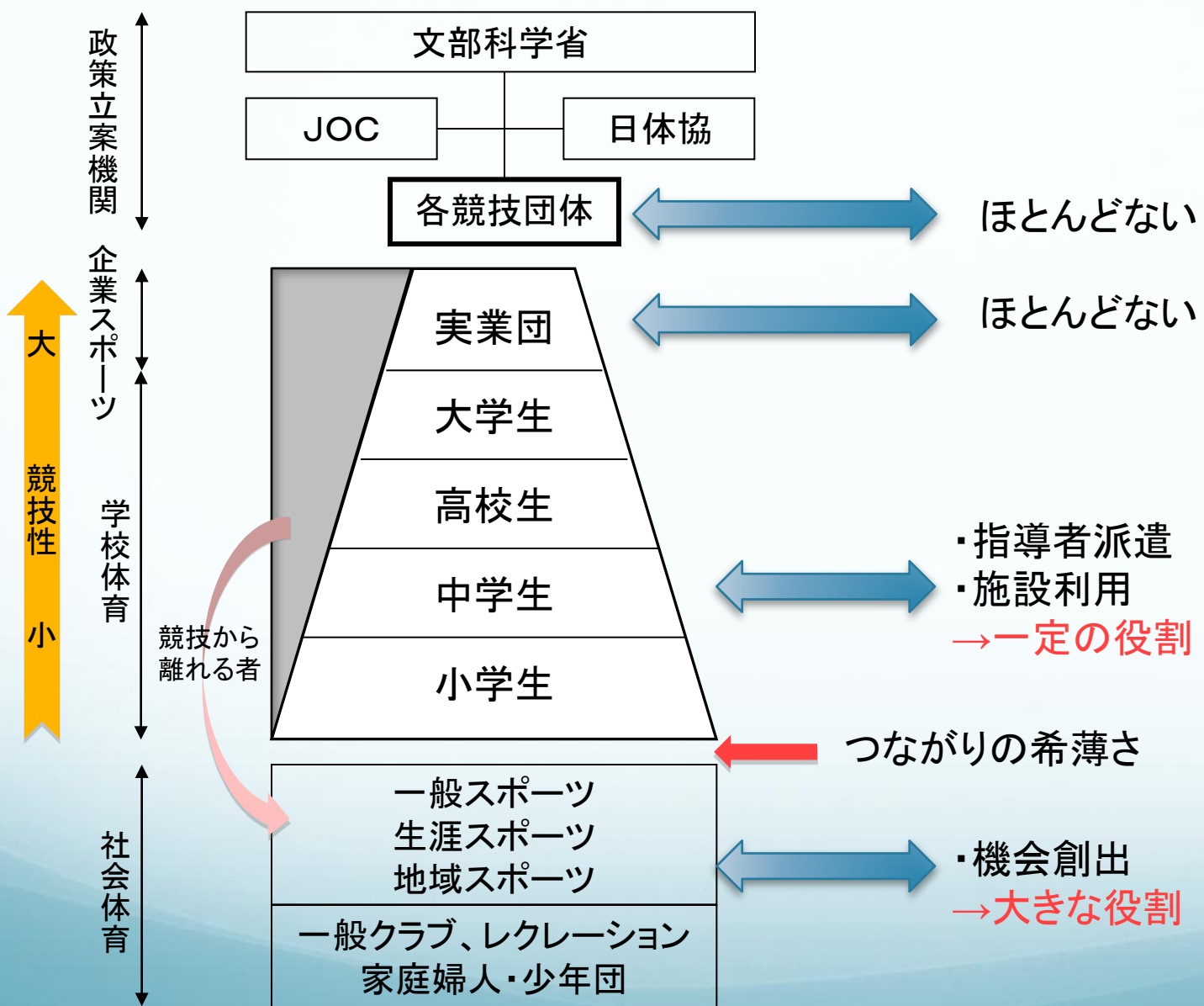
特に
アマチュアスポーツ



競技スポーツへの参加意欲の減少につながっている (S60:5.4%→H16:3.2%, 総務省)
マスコミの扱いに左右される「見るスポーツ」の現状

地域クラブでの活動を通じて、
競うことで、直に感動体験できる場の創出が必要

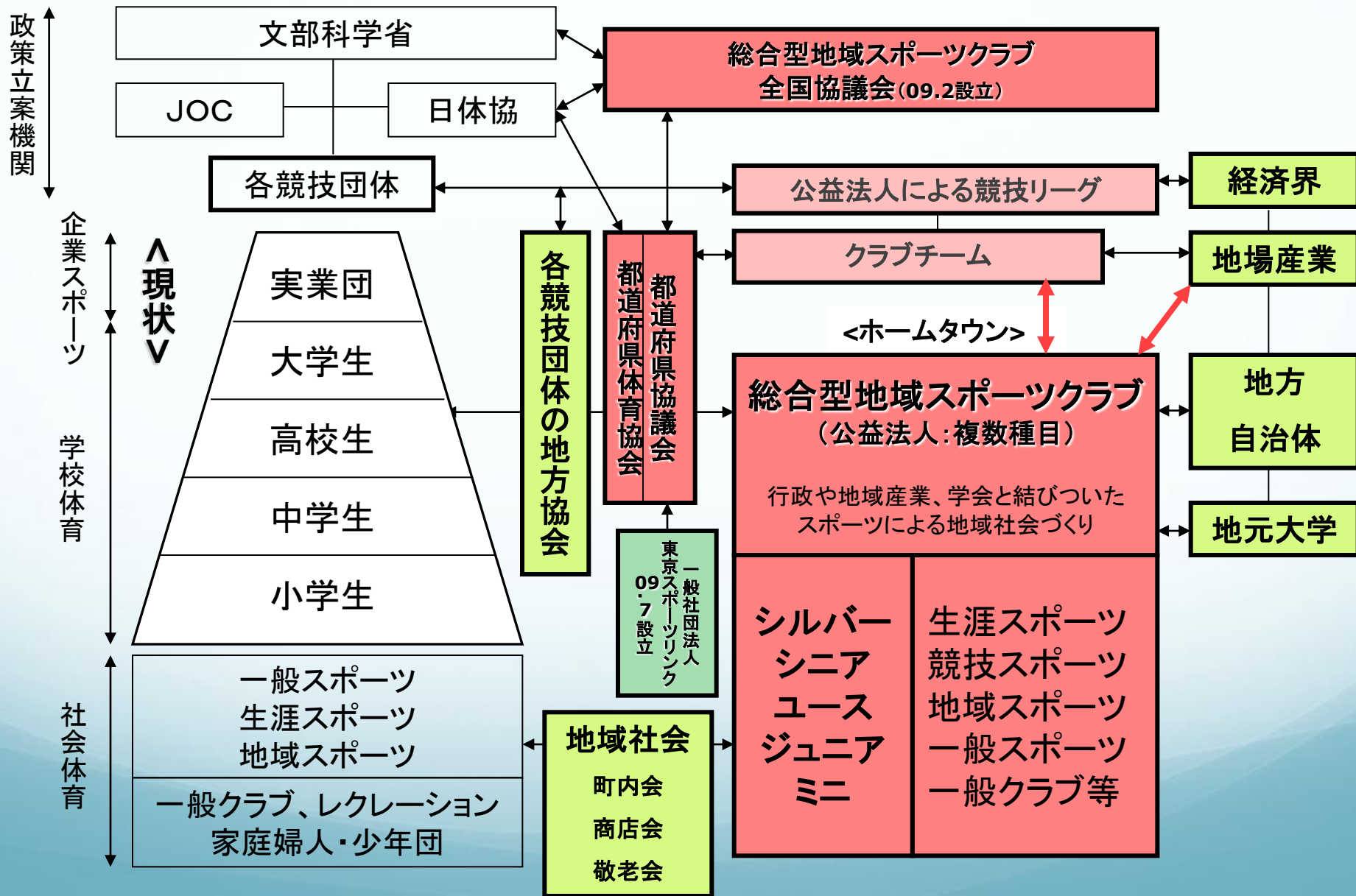
4. 総合型クラブと各機関との連携の現状



テーマ

地域に軸足を置きながら、「する」のみならず「見る」「支える」面で、競技スポーツといかに共存共栄するか

5. 競技スポーツとの連携モデル(東京モデル)



6. 競技スポーツとの連携の可能性

◎ex. 日本トップリーグ連携機構

日本の団体球技リーグ8競技9団体による組織(下表★印)

(バスケットボール、バレーボール、ハンドボール、ソフトボール、アイスホッケー、ホッケー、ラグビー)

種目	リーグ名	本拠地(都道府県もしくは市町村の名称)
サッカー	Jリーグ	さいたま2、新潟、横浜2、東京2、名古屋、鹿島、清水、千葉、磐田、大阪2、大分、川崎、福岡、甲府、広島、京都、仙台、札幌、柏、神戸、鳥栖、平塚、草津、山形、愛媛、水戸、徳島
	JFL	秋田、仙台、高崎、栃木、茨城、千葉、武蔵野、浜松、刈谷、富山、滋賀2、京都、鳥取、岡山2、北九州、沖縄
	なでしこリーグ★	稲城、伊賀、神戸、さいたま、福島、岡山、新潟、神戸 その他2部に9チーム
(フットサル)	Fリーグ	花巻、浦安、町田、平塚、名古屋、大阪、神戸、大分
野球	NPB	札幌、仙台、千葉、所沢、神戸、福岡、東京2、横浜、名古屋、大阪、広島
	四国九州アイランドリーグ	香川、徳島、愛媛、高知、福岡、長崎
	BCリーグ	新潟、長野、富山、石川、福井、群馬
バスケットボール	JBL★	北海道、東京、府中、川崎、刈谷、名古屋、枚方、栃木(一部プロチーム)
	WJBL★	柏、川崎、静岡、安城、刈谷2、ひたちなか、東京3、名古屋2、甲府
	bjリーグ	仙台、埼玉、東京、浜松・東三河、滋賀、新潟、大阪、高松、福岡、大分、沖縄
ラグビー	トップリーグ★	太田、我孫子、八千代、船橋、府中2、武蔵野、磐田、豊田、東大阪、神戸、福岡2、宗像 (プロ契約選手は一部)
アイスホッケー	アジアリーグ★	釧路、苫小牧、日光、西東京(その他中国1、韓国2)

◎さらに、地元の実業団や大学高校の現役トップ選手やチームまたはそのOB・OG、オリンピックあるいはストリートスポーツやマイナースポーツとの連携等

SC全国ネットワークの意義

今後の総合型地域スポーツクラブは、

- ①地域のポテンシャルや個々のクラブの理念・現状を把握した上で、
- ②競技スポーツにもアクセスを始める時にきている。

そのために、

- ③地域振興の視点から、今以上に行政や産業界との連携を強化し
- ④個々のクラブが持続的な事業体としての経営を可能にする組織構築を図るべき段階に来ている。

全国組織は、具体的事案を提案し実行する組織と言える。